

「オリンピック開催日、東京にて」

ここでいうオリンピックは2020年に開催される東京オリンピックではなく、1940年(昭和15年)に東京で開催される予定だった幻の東京オリンピックのことです。

東北大学医学部は大正4年(1015年)に東北帝国大学医科大学として現在の地に設立されました。2015年(平成27年)に官立として創立100周年を迎え、その記念行事の一環として100周年記念写真集を発刊することになり編集をしています(2019年夏刊予定)。編集の過程では多くの資料に目を通し、また散逸して良陵同窓会に保存されていない資料や卒業アルバムなどは東北大学資料館、国立国会図書館、さらにはネットオークションなどを駆使して探索をしてきました。ある日、オークションサイトに昭和12年(1937年)度東北帝国大学医学部の卒業アルバムを見つけました。良陵同窓会資料室には保存されていない貴重なものであったので、少ない資金の中でなんとかオークションに競り勝ちました。手元に実物が届き何気なくながめていると巻末に文言が目飛び込んできました。

「クラスの総会(クラス会のこと、筆者追記)は次の2回におこなふことにした。」

「1940年度の総会、オリンピック開催日、東京にて。総会は国際オリンピックの総見を兼ねて在京生が中心となって計画しよう。」

しかしその東京オリンピックは日本を取り巻く国際情勢の悪化から返上せざるを得ず開催されることはありませんでした。また戦争がはじまりその後の卒業生の方々の行く末は卒業時に思い浮かべていたものとは異なっていたと推察されるとともに、幾多のご苦勞をされた事は容易に想像され、胸が詰まるものがありました。

クラス会といっても在学生の皆さんにはピンと来ないかもしれません。皆さんが大学を卒業した後は初期・後期研修、専門医取得、大学院進学や留学、病院への赴任など医師として一人前になってゆくためには乗り越えなくてはゆけないステップが幾つも待ち構えています。生活は公私ともに多忙を極め、仙台を離れる卒業生もあり母校の事を思い出す暇も無いかもしれません。

しかしある年齢になり、ふと余裕が出てきた時にクラス会が自然とはじまり、その開催とともに卒後10年記念写真集(昭和42年度卒)、20年記念写真集(昭和26年度卒、「桂蘭」、黒川利雄総長命名揮毫)が発刊されることもありました。

東北大学医学部学生後援会(PTA)会長

阿部 高明



また良陵同窓会(医学部の同窓会のこと)では卒後25年目の時に総会の代表幹事学年として同窓会をまとめてもらう役回りをお願いしており、それを期にクラス会が頻繁に行われるようになる事も良く聞かれます。

戦前江田島の海軍兵学校の軍人は同級生を何よりも大切に、同級生が戦死した場合は残された家族を生き残った同級生が可能な限り面倒を見るという暗黙の了解があったと聞きます。現代では美談として語られるかどうかは定かではありませんがクラスの“絆”の強さがそうさせたのでしょうか。

現在、医学部は我々の時代とは異なって卒業すれば何とかやって行ける時代は過ぎ去りました。特に卒業後初期研修病院を決める際に、ともすれば同級生は自分が行きたい研修病院の枠を争う“ライバル(これも死語かもしれませんが)”になっていませんか? クラスの“絆”が薄れていく事にだけはなして欲しくないと願ってやみません。

同級(クラス)・同窓(学校)・同門(医局)という一生のつながりの第一歩である事を認識して頂きたいと思います。

「次の総会は1950年4月上旬、その時の仙台市一流の料亭において。会費は時価。勿論、その時、仙台に居る人達は、皆で協力してやって貰ふことにしたい。」

その料亭は既にありませんが、在校生の皆さんは同じクラスの一員としての絆を生涯大切にしたいと思えます。そしてあるものは仙台で、また別のもは仙台を離れ遠くの地で、東北大学の卒業生としての誇りを持ち、自助努力しながら母校並びにその同窓生の発展を見守って欲しいと思う今日この頃です。

總會豫告

「三十七年會」總會

一九三七年に卒業する我々クラスは、其儘「三十七年會」の名をつけよう。

「三十七年會」の總會は次の二回に行なふことにし、其計畫委員として次の人達を推薦したい。勿論、その時、仙臺に居る人達は、皆で協力してやつて貰ふことにしたい。一九四〇年度總會は、國際オリンピックの總見を兼ねて、在京同窓生が中心となつて計畫しよう。

一、一九四〇年度總會。

—— 國際オリンピック開催日、東京にて ——

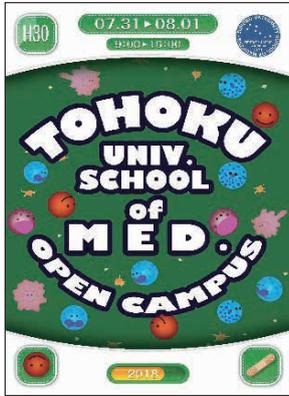
一、一九五〇年度總會。

—— 一九五〇年四月上旬、その時の仙臺市一流の料亭に於て。會費は時價 ——

一、委員

今井三郎、荒川雅男、菅羽春吉、日下千太郎、藤澤直人、高橋武、齋藤七郎、前川新誠、小原義郎、大友孝藏、鈴木秀彦、佐藤正二郎、波多野彰

平成 30 年度医学部オープンキャンパスを開催しました



平成 30 年 7 月 31 日(火)、8 月 1 日(水)の 2 日間、東北大学医学部・医学系研究科オープンキャンパスが星陵キャンパスにおいて開催されました。猛暑の最中、学生実行委員、学生ボランティア、教職員が一体となって過去最高の 6,143 名の来場者をお迎えすることができました。

医学科からの報告です。

今回も充実した企画を揃え、来場者に医学科をより深く理解してもらうことができるような内容となりました。「医学科案内ツアー」では、研究現場、最新の研究・治療機器などを見学しましたが、整理券待ちの人数も多く、例年どおり人気の高い企画となりました。また、星陵オーディトリウム講堂にて大学の講義を体験する「記念講演・講義」、実習室で大学の実験を体験する「実験実演コーナー」、さらに良陵会館のスキルスラボにて「手技体験」、「救急体験」を行いました。これらも大変好評でした。この他、「医療を覗き見！コーナー（ビデオ上映）」では医学科学生が高校生たちに解説を行いながらの上映を行い、「入試相談会」、「学生と語ろう」では高校生からの様々な質問に答え、いずれの企画にも多くの高校生が詰めかけました。加えて、今年度も来場者が様々な企画に参加し医学部を幅広く知ってもらうため、「シールキャンペーン」(シールを集めて景品と交換)を実施し、好評を得ました。さらには、「附属図書館医学分館」、「大学病院」、「加齢医学研究所」、「エコチル調査宮城ユニットセンター」、「東北メディカル・メガバンク機構」からも出展があり、参加者にとって得るものの多いオープンキャンパスになったかと思えます。



保健学科からの報告です。

「模擬講義」、「保健学科案内ツアー」、「実習体験コー

医学部オープンキャンパス推進委員会

委員長

保健学科広報部会長

大学院 修士課程長

神宮 啓一
塩飽 仁
大和田祐二

ナー」、「デモンストレーションコーナー」の企画を準備し、各専攻の特徴を分かりやすく理解できる機会を設けました。また、「保健学科入試・カリキュラム・卒後の進



路等の相談コーナー」の他、「卒業生と語ろうコーナー」、「在学生による入試体験談や学生生活相談コーナー」では学部及び大学院生、卒業生と触れ合う場を設け、卒業後の進路までをイメージしてもらえるように工夫しました。

看護学専攻では、ツアーや実習体験コーナーなどを準備しました。参加者は、実際に新生児モデルに触ったり、看護の基礎的な技術を体験したりと様々な体験を楽しんでいました。

放射線技術科学専攻では、ツアーやデモンストレーション、模擬講義での専攻紹介を実施しました。模擬講義は、分かりやすい講義で好評でした。

検査技術科学専攻でも学生がツアーや展示を実施する他、模擬講義も担当しました。

大学院医学系研究科からの報告です。

大学院パネル展示コーナーにおいて、医学部の学生が卒業後どのようなキャリアを積んでいるのか、入学後どのような研究をしているのかを、ポスター掲載により行いました。



参加した高校生にとっては、大学進学だけでなく将来について考える機会を与える場となり、また、大学院への入学希望者にとっては、キャンパス内にて医学系研究科の活力を感じる機会になりました。

年々参加者数が増加し、ついに 6000 人を超え、大変盛況な 2 日間のオープンキャンパスとなりました。最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心から感謝申し上げます。

平成 30 年度医学科 3 年次基礎医学修練発表会のご報告

医学科運営委員会委員長

石井 直人
 渋井 愛子

医学科 3 年次基礎医学修練発表会実行委員会委員長

平成 30 年度の基礎医学修練発表会は、平成 31 年 1 月 9 日（水）、10 日（木）の 2 日間行われ、発表者は口頭で 97 人、ポスターで 5 人でした。昨年度に引き続き、今年度も約 3 ヶ月という例年よりも短い基礎医学修練期間で自分のテーマに沿って研究を進めてまいりました。短期間ながらも、担当教員の方々によるご指導のもと、充実した研究成果を得られていた学生が多かったように思います。その集大成とも言える本発表会ですが、嬉しいことに発表を希望する学生が多く、時間の都合上やむなく自分が行った研究の一部分のみの発表となってしまった学生も見受けられました。しかし質疑応答時間中に、発表を聞いた学生から出た質問に対して、より深い内容にまで踏み込んだ説明をしている学生を見たとき、発表会の意義を感じました。

またポスター発表では、自分の研究結果を掲示して質問を適宜受けつけるという形をとりました。基本的な疑問から専門的な質問まで自分の知っている範囲で丁寧に答えていた学生の姿が印象的でした。

発表会の運営は全て学生で組織された実行委員会を中心に行われ、少人数ながらも各々が責任を持って仕事を行ってくれたことで円滑に進行できました。また実行委員以外の同級生も、実行委員会からの無理なスケジュールでの発表準備を御願いしても、快く協力してもらったため、準備から当日まで大きな問題も無く運営することが出

来ました。今年も発表会の演題に対して口頭、ポスター共に 4 つの評価項目を設け、学生と教員で公平な評価を行うようにしました。特に優れた演題に対しては、賞状と副賞としてギフトカードを授与しました。

今年度の基礎医学修練も多くの方々のご支援、ご協力のおかげで無事終わることが出来ました。特に、医学部学生後援会のご支援により運営費を確保することが出来たことで、本会を質の高い有意義な会にすることが出来ました。

関係者一同、多大なるご支援を心より感謝申し上げます。



口演発表の様子



口演発表の様子



熱心な質疑応答



ポスターセッション会場の様子



基礎医学修練発表会最優秀者表彰式



実行委員会集合写真

第12回リトリート大学院生研究発表会について

第12回リトリート大学院生研究発表会 実行委員会

平成31年1月12日（土）、医学部学生後援会のご支援を頂き、東北大学星陵キャンパス星陵オーディトリウムにて、『第12回リトリート大学院生研究発表会』が開催されました。このリトリートは、医学系研究科の多様な分野に所属する大学院生が集い、運営し、学生主体で作上げた研究発表会です。例年、大学院生だけでなく多くの医学部学生にも参加していただいております。

第12回となる今年度は、『若手が拓く医学研究のフロンティア～さあ研究室から飛びだそう！～』というテーマのもと開催致しました。伝統となりつつあるリトリートは、分野の垣根を越えて様々な分野の研究者達と交流するまたとないチャンスです。交流することで新たな視点を獲得し、自身の研究を発展させ、医学研究のフロンティアを切り拓いていくことを祈念して、このテーマに決定致しました。

このテーマのもと開催された今回のリトリートでは、合計86題（口頭発表25題、ポスター発表55題、抄録掲載のみ6題）の演題を受け付け、当日は148名の方々にご参加いただきました。会場はテーマで祈念した通り、分野の垣根を越えた活発な議論や交流で溢れかえっており、普段は触れることのない研究分野に触れ、今後の研究に良い刺激を得る機会になったと確信しています。

さらに今回のリトリートでは昨年度の3名から人数が増え、6名の医学部学生から演題応募があり、ポスター発表だけでなく口頭発表も行っていました。いずれも大学院生顔負けの素晴らしい発表であり、その活躍には医学部学生後援会より優秀学生賞やベストプレゼン賞が授与されました。ベストプレゼン賞は、最もわかりやすいプレゼンをした発表者に与えられる賞です。大学院生と比較しても、医学部学生が優れたプレゼンをしたことがわかります。また優れた質問を投げかけ、有意義な討論を行った方に贈られる優秀質問賞を医学部学生が受賞しました。今後も素晴らしい研究をなさっている医学部学生に、是非リトリートにご参加いただけることを実行委員一同願っております。

末筆ではございますが、本研究発表会の開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました皆様方、並びにご来場頂きました皆様方に、この場をお借りして、実行委員会一同心より御礼申し上げます。



保健学科検査技術科学専攻のウェアセレモニー



平成 30 年 9 月 26 日、医学部保健学科 検査技術科学専攻のウェアセレモニーが開催されました。

五十嵐和彦医学部長と菅原明保健学科長から激励を交えた挨拶の後、担当教員から、学生一人一人に東北大学ロゴマークの入った真新しい白衣が授与されました。

最後に学生代表の菊池さんが、これから臨床実習に向かう決意表明を力強く行いました。



保健学科放射線技術科学専攻のウェアセレモニー



平成 30 年 9 月 19 日、医学部保健学科 放射線技術科学専攻のウェアセレモニーが、開催されました。

五十嵐和彦医学部長と菅原明保健学科長から激励を交えた挨拶の後、担当教員から、学生一人一人に東北大学ロゴマークの入った真新しい白衣が授与されました。

最後に学生代表の大森さんが、これから臨床実習に向かう決意表明を力強く行いました。



医学分館の学習用図書の整備・充実について

東北大学附属図書館医学分館長

北本 哲之

医学分館では、星陵キャンパスに所属する学生・教職員の方々の学習・研究・教育に必要な資料やサービスを日々提供しております。特に学生が必要とする図書の充実に努めておりますが、医学書は頻りに改版される上に高額であるため、十分に整備ができているとは言い難いのが実情です。このような中で、今年度も医学部学生後援会から学生用図書整備の御支援を賜ったことは大変ありがたく、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最近では、パソコンやスマートフォンを利用して、図書館以外でも利用できる電子ブックの出版が増加していますが、その利便性の高さから利用者の需要も高まっています。そこで今回は、冊子体の図書 13 点に加え、医学統計のテキストなど多くの利用が見込まれる電子ブック 22 点の整備に利用させていただきました。1 月初旬までの約 1 か月間、これらの図書および電子ブックのアクセスしおりをエントランスに展示したところ、早速多



くの方の利用がありました。

当館では、文献検索や論文執筆に関するセミナーの開催や、学生による選書企画などを毎年実施しているほか、ホームページや Twitter でも日々情報発信をしておりますので、学生のみなさんには、ぜひ学習・研究にご活用いただければと思います。

学生受賞情報

1) 第41回日本高血圧学会総会で Young Investigators' Promotion 奨励賞を受賞

平成29年秋に基礎医学修練で分子疫学分野（栗山進一教授）に配属されていた医学科4年生の白崎琢磨さんが、第41回日本高血圧学会総会で Young Investigators' Promotion 奨励賞を受賞しました。

演題名：「疫学研究における妊婦の随時血圧と家庭血圧に関する検討：三世代コホート調査」

2) 「トビタテ！留学 JAPAN」の東北地域第1回留学体験報告会大学生部門にて優良賞を受賞

「トビタテ！留学 JAPAN」の東北地域第1回留学体験報告会大学生部門にて医学部医学科4年の林明澄さんが優良賞を受賞いたしました。

「トビタテ！留学 JAPAN」とは、2013年に文部科学省を中心として始まった官民協働の海外留学支援制度です。

この発表会は基礎修練における留学の成果を発表したものととなります。



「トビタテ！留学 JAPAN」東北地域第1回留学体験報告会大学生部門受賞者

3) 平成30年度 辛酉優秀学生賞受賞者

辛酉優秀学生賞は、本学大学院に所属する大学院学生の研究をさらに推進させることを目的として贈られており、日本学術振興会特別研究員（PD・DC1・DC2）に申請した学生を対象に選考されます。

- 元木 康介（人間脳科学研究）
- 渡部 宏幸（高次機能障害学）
- 松澤 拓郎（機能薬理学）



辛酉優秀学生賞受賞者

4) 2018年度 医学部学生奨学賞受賞者

医学部学生奨学賞は、東北大学の学生で、学業成績が優秀であり、学会や主要学術誌に学問的価値の高い研究を発表した学生に贈られます。

- 最優秀賞 阪路 健祐（5年）
- 優秀賞 岩本 憲宏（6年）
- 優秀賞 林 明澄（4年）
- 優秀賞 八木 櫻子（4年）
- 奨学賞 諸田 直哉（6年）
- 奨学賞 玉槻 大輔（5年）
- 奨学賞 浅原 健人（4年）
- 奨学賞 阿部 拓斗（4年）
- 奨学賞 日下 亮（4年）
- 奨学賞 高橋 哲（4年）



医学部学生奨学賞受賞者

アメリカ留学体験記

医学部医学科 3年 千田 春佳

私は基礎医学修練において約3カ月半、アメリカの Sanford Barnhum Prebys 研究所に配属されました。東北大学卒の山口裕先生がPIのラボで、細胞外マトリックスに関する研究を行いました。ラボのメンバーは全員日本人でしたが、医学部卒や工学部卒の方、元々全く違う分野の研究をしていた方など、様々な経歴の方々が集まっていた。とても親切な方ばかりで、研究について大変丁寧に教えてくださり、休日にはご飯に連れて行ってくださるなど、研究面でも生活面でもたくさんのサポートを頂き、充実した

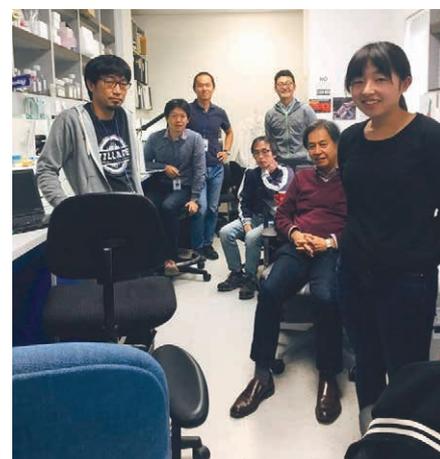
3ヶ月半を過ごすことができました。ラボで最も印象的だったのは、毎日のラボミーティングです。各々の実験データを全員で見て、そこから何が分かるのか、それがどう次に繋がるのか、などを日々



話し合っていました。研究者の間に上下関係はなく、各自が専門を生かして積極的に発言し、知識が共有される事で議論が進展していく過程は非常に面白かったです。

留学中は研究以外にも、アメリカ各地を訪れて、有名なショーを見に行ったり大自然を味わったりしてアメリカを満喫することが出来ました。

貴重な留学の経験を与えてくださった東北大学の先生方、研究所の皆さん、そして両親に感謝したいです。



インド留学体験記

医学部医学科 3年 須納瀬 博基

私はインドのバンガロールにある、JNCASR (Jawaharlal Nehru Centre for Advanced Scientific Research) という研究機関で「乳がんにおけるPC4の役割」をテーマに、一ヶ月間過ごした。インドへの留学は学年でただ一人、私だけであった。私は留学前からインドに惹かれていた。“イ



ンド”という言葉は生活する上で、誰もが頻繁に聞いたことがあると思う。ただ、インドの文化、生活、習慣を実際に感じたことのある人は少ない。それらを若いうちに肌で感じることは良い経験になると思った。実際に行ってみて、驚きの連続であった。どんな食べ物もベースはカレー、お手洗いには紙がない、道路はクラクションの嵐、宗教の多さ、独特な英語の訛り…。全てが自分にとって新鮮であった。私は海外の様々な国に行ったことがあるが、これほど刺激に溢れる国は初めてだった。私は日本との違いを一ヶ月間楽しんだ。

留学は知識以上のことが得られる絶好の機会である。今回の留学で良かったことは、留学先に誰も日本人がいなかったこと。頼れる人がいない中で、自分が本当に困難な状況に置かれた時、どう英語でコミュニケーションを取るか、どう対処すべきか、非常に考えさせられた。今回の留学を通して、人として一回りも二回りも大きくなった気がした。

私の学生生活

医学部医学科 2年 岡部 大輝

かねてから憧れていた医学生となって、早くも2年が経とうとしている。入学以来、厳しい試験に幾度となく立ち向かい、数多くの実習も行ってきた。目の前の課題を乗り越えることに精一杯の日々ではあるが、とても充実を感じている。おそらくこの充実感は、将来人の命を預かることに対して責任感を持つようになった為なので

あろう。いま自分が必死に学んでいることが将来必ず人の為になるという気持ち、困難な課題を乗り越える力となっている。また、同じ夢を持つ友人達と互いに学び合い、切磋琢磨することも非常に楽しく、大学ならではの学びだと感じている。将来信頼の置ける医師となる為に、今後の大学生活も精一杯の努力のもとに過ごしたい。

医学部医学科 3年 長田 公喜

一年生のころ医学に全く面白さを感じず、ただテストで合格するためだけに勉強していました。しかし、2年生の医化学の授業が非常に面白いと感じ、それ以降、ひたすらつまらなさと感じていた授業が非常に面白いものだと気づくようになりました。我々の体は非常に奥が深く様々な要素が結びついているのだと気付かされました。医学はただひたすら暗記するものではなく考えるものだ

と感じます。

他に私は、陸上競技と趣味のプログラミングにかなりの時間を費やしています。プログラミングですが今は機械学習を行っています。Webや画像処理などにも興味はありますが、機械学習は様々な分野に応用でき我々を驚かせてくれる興奮に満ちた分野だと感じています。

医学部保健学科 1年 永富 麻美

高校までとは異なり、大学では自分の興味のある分野をより深く学ぶようになりました。1年間の中で一番印象に残っている解剖見学では、座学で学んだ人体の仕組みや疾患について実際に見ることができ、とても貴重な経験となりました。看護とは何かを追究しながら、これからはさらに多くのことを学んでいきたいと思えます。

部活は医学部水泳部に所属しています。水泳初心者でしたが、先輩方や同期の皆に支えられ水泳の楽しさを知るとともに、向上心も生まれました。素晴らしい仲間に出会うことができ、初めての大学生活1年目はとても充実したものとなりました。

医学部保健学科 2年 速見 文菜

4セメスターから始まった学生実験では普段の座学だけは学ぶことができないことを実際に自分たちで実験することで理解が深まりました。

来年からは病院実習が始まりこれまで授業で教わってきた知識と結びつける応用力が必要になるので、普段の授業や実験で新しい知識を習得しつつ国家試験を視野に

入れたこれまでの授業の復習にも励みたいと思います。

春休み期間中にオーストラリアに約1ヶ月間留学するので、価値観や文化の違う方々と接する中で異文化理解はもちろん診療放射線技師になるために不可欠であるコミュニケーション能力も高め、自分の視野を広げて帰ってきたいと思っています。

医学部医学科 4年 **勝又 遥子**

試験に次ぐ試験、という印象が残るこの1年、一番の楽しみは友人たちとの交流でした。休み時間はくだらない話で盛り上がり、試験直前は一緒に勉強し、時にはみんなでお酒を飲みにいきました。4年生になってから仲良くなった友人も何人かいるのは嬉しいことです。さて、5年生進級を目前に控え、いよいよ臨床実習が始まろう

としています。共用試験CBTに向けて勉強していたとき、今までに学んだ医学知識がいかに膨大か思い知りましたが、これからはその知識をもとに、患者さんたちに正しく対応していくことを学ばなければいけません。次の一年も、友人たちとの時間を大切にしながら、学ぶべきことをしっかりと学んでいこうと思います。

医学部医学科 5年 **玉槻 大輔**

僕の学生生活について振り返りますと、今年度は学術面で大きな経験をすることができました。3年生の基礎医学修練の際、配属先の病理診断学分野にて、肺癌組織を構成する線維芽細胞についての研究を行いました。この研究で得られたデータを、昨年6月の日本病理学会で筆頭演者として発表する機会をいただきました。初の学

会参加でしたが、自分の研究に関する講演を聴いたり、学生のポスターセッションに参加したりと、多くの刺激を受けました。また、医学部学生奨学賞においてもこの研究を評価して頂き、感謝申し上げます。今年は6年生となり、国家試験・初期研修へと向かいますが、今回の経験は医師としての生活に生きていくと確信しています。

医学部医学科 6年 **森 健太郎**

医師国家試験が終了し、残すは卒業式を迎えるのみとなりました。最終学年となったこの1年は、医師になる瞬間が着実に近づいていることを実感するとともに、将来への期待や不安を自覚することも多くなったように思います。迷いや不安を断ち切り、国家試験終了まで全力を尽くすことができたのは、厳しくも温かいご指導をく

ださった先生方、惜しみないご支援をくださった大学事務の皆様、そして早朝から深夜までともに切磋琢磨した同級生の皆様のおかげです。今胸に抱いている感謝の気持ちを忘れることなく、地域社会に少しでも貢献できる医師を目指し、今後も一層精進する決意でおります。

医学部保健学科 3年 **土師 佑太**

今年度は2年次から継続する学内実習に加え後期には臨地実習を行い、今まで学んできた検査がどのように行われているのかを自らの目で見学しました。

また、学友会吹奏楽部に所属し、実習や講義と両立しながら演奏会や行事に積極的に参加することが出来

ました。

来年度からは研究室への配属が始まり、卒業研究へ取り組んでいくこととなります。私は医工学研究科の研究室に配属される予定となっており、これからもより一層勉学に励んでいきたいと思っております。

医学部保健学科 4年 **小沼 普暉**

時が経つのは早いもので、私の学生生活も終わりを迎えようとしています。学生生活最後の一年を振り返ってみると、実習や卒業研究、部活動に追われる日々を過ごしたことが印象に残っています。最終学年になることでこれまで以上に勉強、部活動共に忙しくなることは理解していたつもりでした。しかし、実際に過ごしてみると

部活動と勉学の両立は想像以上に難しく、悩むこともありましたが、周りの友人や先生方に支えられ最後までやりきることができました。学生生活最後の一年は素晴らしい経験をすることができたと感じています。私は卒業後看護師として病院に勤務する予定です。学生生活で得られた経験を生かし、一日一日を大切に頑張ります。

東北大学医学部学生後援会(PTA)主催の「入学記念祝賀会」へのご案内



この祝賀会では、学科の紹介、説明及び在学中の勉学や学生生活などの様子と医学部教職員及び在学生との懇談も行われます。



今春(平成31年4月)、東北大学医学科及び保健学科に入学する新生及び保護者の方を対象とした「入学祝賀会」を右記のとおり開催いたします。

学生後援会(PTA)会員の皆様におかれましては、会員同士が集う良い機会と思われまますので、会員同士お誘いあわせ、御出席くださいますようお願いしております。

なお、当日は、東北大学全体の入学式(午前中)が行

われますので、午後に会場を移動して開催となります。

- ★日時：平成31年4月4日(木)
午後1時から(2時間程度)
- ★会場：江陽グランドホテル・鳳凰の間・5階
(仙台市青葉区本町二丁目3-1 TEL: 022-267-5111)
- ★祝賀会の主な内容
 - 医学部長の挨拶
 - 学生後援会(PTA)会長の挨拶
 - 来賓等の紹介・祝辞
 - 祝宴・懇談
 - 医学科及び保健学科の紹介・説明など
 - 在学生からの歓迎の挨拶など
- ★会費は無料です
- ★事前のお申し込みは不要です
- ★軽食及び飲み物を準備しております

事務局

未来医療への22世紀基金ご支援のお願い

東北大学大学院医学系研究科長

医学部長 五十嵐 和彦

東北大学医学部・大学院医学系研究科では、2018年11月に「未来医療への22世紀基金」を設置いたしました。

この基金は既設の「東北大学医学部教育研究支援基金」を発展継承させて新たに東北大学特定基金に設置し、次の100年に向けて長期的な視野に立った教育・研究の展開と未来医療の構築を目指した様々な活動を推進していくために活用してまいります。

引き続き、皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

税制上の優遇措置

個人…東北大学へのご寄附は、税務署に所得税の確定申告をしていただくことにより、所得額の40%を上限とする寄附金額から2,000円を差し引いた額の所得控除を受けることが出来ます。また、お住まいの都道府県・市町村が条例で本学を寄附金税額控除の対象に指定している場合は、住民税の控除対象になります。詳細はお住いの地域を管轄する税務署・各自治体にお問い合わせください

法人・団体…東北大学へのご寄附は、法人税の申告の際に全額を損金に算入することができます。

【ご寄附の方法】

クレジットカード(VISA、MasterCard)・郵便振替・銀行振込をご利用いただけます。お手続きはWeb申込フォームからお願いします。

◆東北大学医学部 HP: <http://www.med.tohoku.ac.jp/>

◆東北大学基金 HP: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/>

【お問合せ先】 東北大学医学部・医学系研究科経理課財務係
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2番1号
TEL 022-717-8011 FAX 022-717-8021
E-mail med-kikin@med.tohoku.ac.jp

編集後記

医学部学生後援会(PTA)は、会員の皆様方、学生及び教職員の方々を支えられ11年目を迎える事ができました。心から感謝申し上げます。

今春も、夢と希望に満ち溢れた新生の皆様方の入学を心からお慶び申し上げます。また、入学後の学生生活に係る支援の一端を担えさせていただければ幸いです。

本学生後援会(PTA)は、学生への支援・助成活動【入学祝賀会開催、新入生オリエンテーション及びオープンキャンパスへの助成、学生用図書を整備と充実、卒業謝恩会への助成等】などに積極的に取り組み、その活動の様子を年2回発行する学

生後援会(PTA)会報により会員(保護者)の皆様方にお知らせしております。

また学生、保護者そして、本学部教職員との交流にも努めてまいりますので、更なる御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学生後援会事務局(PTA)



東北大学医学部学生後援会(PTA)事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1

TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp

<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>